

【事例発表①】

「わたむきねっと」を核とした  
地域支援事業の連動



日野町のシンボル綿向山

日野町長寿福祉課

グループリーダー  
主任

坂田 敦子  
山添 史郎

# 1. 滋賀県日野町の概要①

- ・滋賀県の東南部に位置
- ・町の東部には鈴鹿山脈があり、町のシンボルの綿向山がそびえる
- ・鉄道など公共交通は不便
- ・一方で、車があれば、比較的便利な地域でもある
- ・農村と旧の市街地(町場)が多い一方で、新興住宅地もあり、アパートもある
- ・近所同士のつながり、支え合いは、まだまだ残っている



町の花  
ホンシャクナゲ

# 1. 滋賀県日野町の概要②

- 戦国時代には、蒲生氏郷(松坂市、会津若松市の礎を築く)を輩出
- 江戸時代には、近江日野商人を多数輩出
- 毎年5月3日には、馬見岡綿向神社で日野祭を開催



# 1. 滋賀県日野町の概要③

- 人口 21,471人(平成30年12月末現在)
- 高齢者数 6,350人(平成30年12月末現在)  
(うち後期高齢者人口は、3,018人)
- 高齢化率 29.57%(平成30年12月末現在)  
※農村部と旧の市街地で高齢化率が高い

- 介護保険サービスの三大特徴
  - ①施設系のサービスが多い
  - ②居宅系のサービスが少ない
  - ③リハビリ系のサービスが少ない



# 1. 滋賀県日野町の概要④

- ・地域包括支援センターは1箇所(直営)、長寿福祉課内に設置

## 【医療機関】

病院	1箇所
診療所	9箇所
歯科医院	8箇所
薬局	7箇所
訪問看護ステーション	1箇所

## 【入所施設】

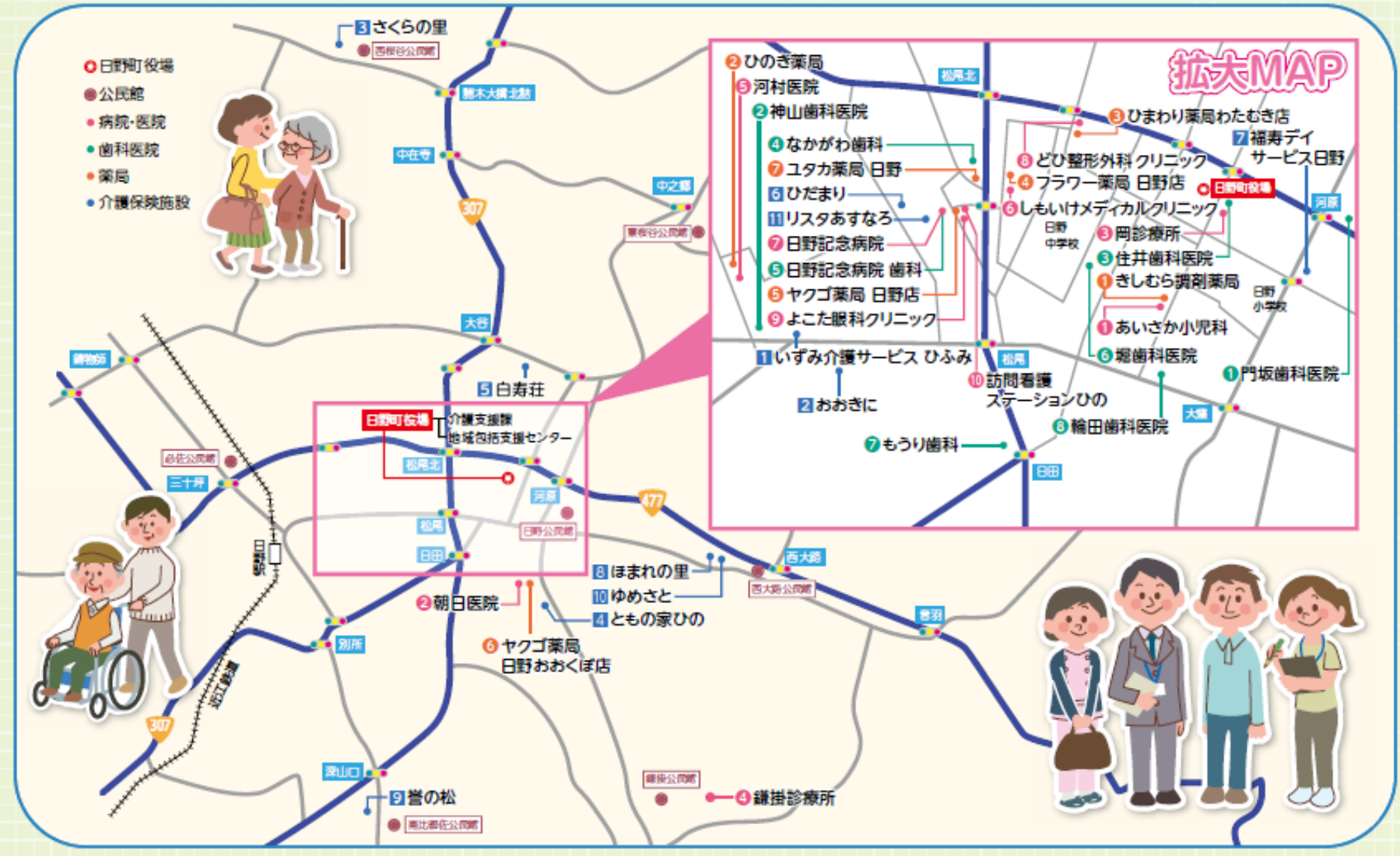
特別養護老人ホーム	2箇所
老人保健施設	1箇所

## 【介護保険サービス事業所】

居宅介護支援事業所	5箇所
デイサービス	6箇所
デイケア	1箇所
訪問介護	2箇所
ショートステイ	3箇所
小規模多機能	1箇所
認知症グループホーム	2箇所
認知症デイサービス	1箇所
(訪問看護ステーション)	1箇所)

# 2. 日野町の在宅医療・介護連携推進事業①

## 日野町 医療と介護 暮らし安心マップ



### 3. 日野町の在宅医療・介護連携推進事業②

#### ●「わたむきねっと」の立ち上げ

(日野町地域医療・介護・福祉ネットワーク研究会)

- ◆平成19年 東近江医療連携ネットワーク「三方よし研究会」発足
  - ・脳卒中地域連携パスをきっかけに、医療・介護機関の連携によって発足 ⇒ 圏域の医療・介護の研究・連携の核を担う場
- ◆平成24年 「わたむきねっと準備委員会」発足
  - ・多職種連携の必要性が高まる中、「市町村の小さな範囲でも顔の見える関係づくりが必要」との思いから、東近江保健所と医師会会長の呼びかけで準備会を発足
  - ・準備会には、医師会会長・病院事務長・訪問看護ステーション・薬剤師会・ヘルパーステーション等に呼びかけ
- ◆平成25年 「わたむきねっと」発足

### 3. 日野町の在宅医療・介護連携推進事業③

#### ●「わたむきねっと検討委員会」の立ち上げ (多職種による常設型の会議)

#### ◆平成28年 「わたむきねっと検討委員会」発足

- ・「わたむきねっと」の立ち上げ時には、様々な関係者に集ってもらったが、次第に事務局主導で、研修を企画し、参加してもらおう場になっていた
- ・「研修の企画をみんなで考えたい」「顔の見える関係づくりを進めたい」との思いから、多職種による「わたむきねっと検討委員会」を発足
- ・検討委員会のメンバー(発足時)は、医師、歯科医師、管理栄養士、薬剤師、医療SW、主任ケアマネ、ヘルパー、通所介護事業所の職員、社協の地域福祉担当、包括、保健センター
- ・地域ケア個別会議(困難ケース型)の助言者としても、同時に依頼をした

※「わたむきねっと」「わたむきねっと検討委員会」の二層体制に



## 4. 在宅医療・介護連携推進事業と他の事業との連動のきっかけ

### ●介護予防普及展開事業のモデル事業への応募 (平成29年度)

- ◆地域ケア個別会議を、どのようなメンバーで立ち上げるか？
- ◆「わたむきねっと検討会」という地域資源(宝物)の活用(県からも、助言・後押しあり)
- ◆わたむきねっと検討委員会のメンバーに対し、地域ケア個別会議での助言者を依頼
- ◆平成29年9月～わたむきねっと検討委員会のメンバーが助言者の中心となって、地域ケア個別会議を開催

## 5. 事業連動の意図「わたむきねっと検討委員会」の多機能化

### ●「わたむきねっと検討委員会」を多機能化したい

⇒地域医療・介護・福祉の連携・研修の企画

### ＋地域ケア個別会議の助言者

※小さな町で職員も限られているので、できるだけ、効率よく実施したい。協力いただける委員さんの負担も、減らしたいという思い

※最初から連動を意図したというよりも、せっかくなので、いっしょにお願いしてみようという思い

◆平成29年9月～地域ケア個別会議を開催  
(現在は、3月に1回のペース)

◆わたむきねっと検討委員会と地域ケア個別会議を同日に開催(前半で、地域ケア個別会議、後半で、わたむきねっと検討委員会)

# 6. 日野町の地域ケア個別会議の様子①



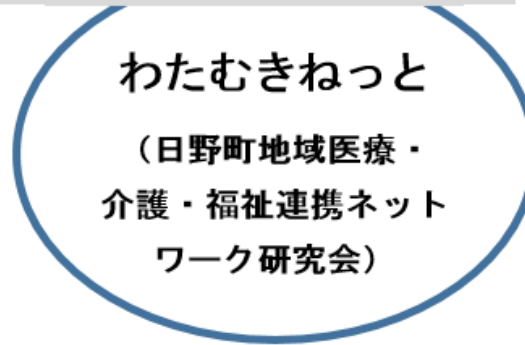
# 6. 日野町の地域ケア個別会議の様子②



# 7. 事業連動のプロセス①

## ◆「わたむきねっと」の立ち上げ(平成25年)

【多職種の研修・交流の場】

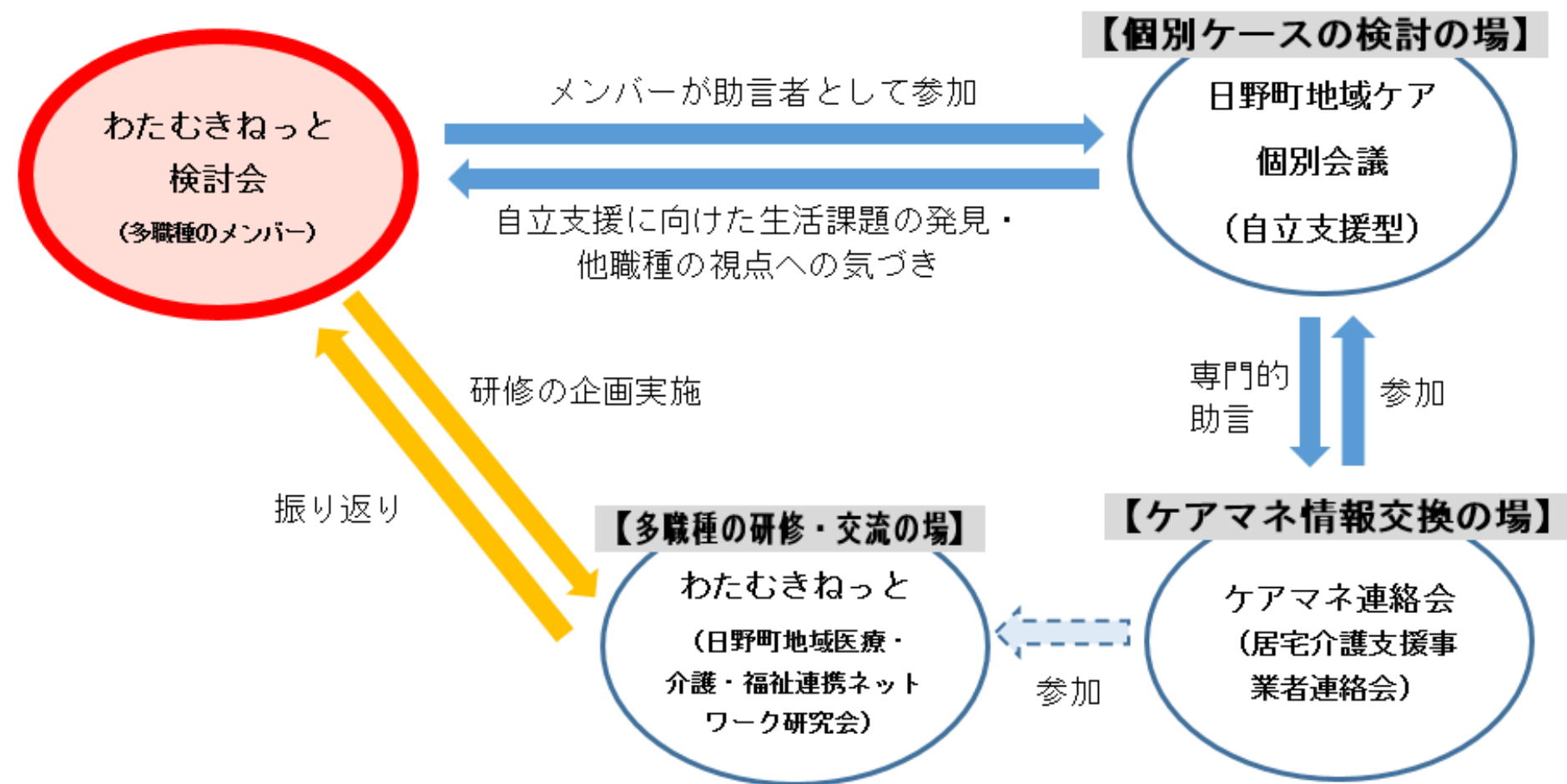


## ◆「わたむきねっと」「わたむきねっと検討会」の二層体制(平成28年)



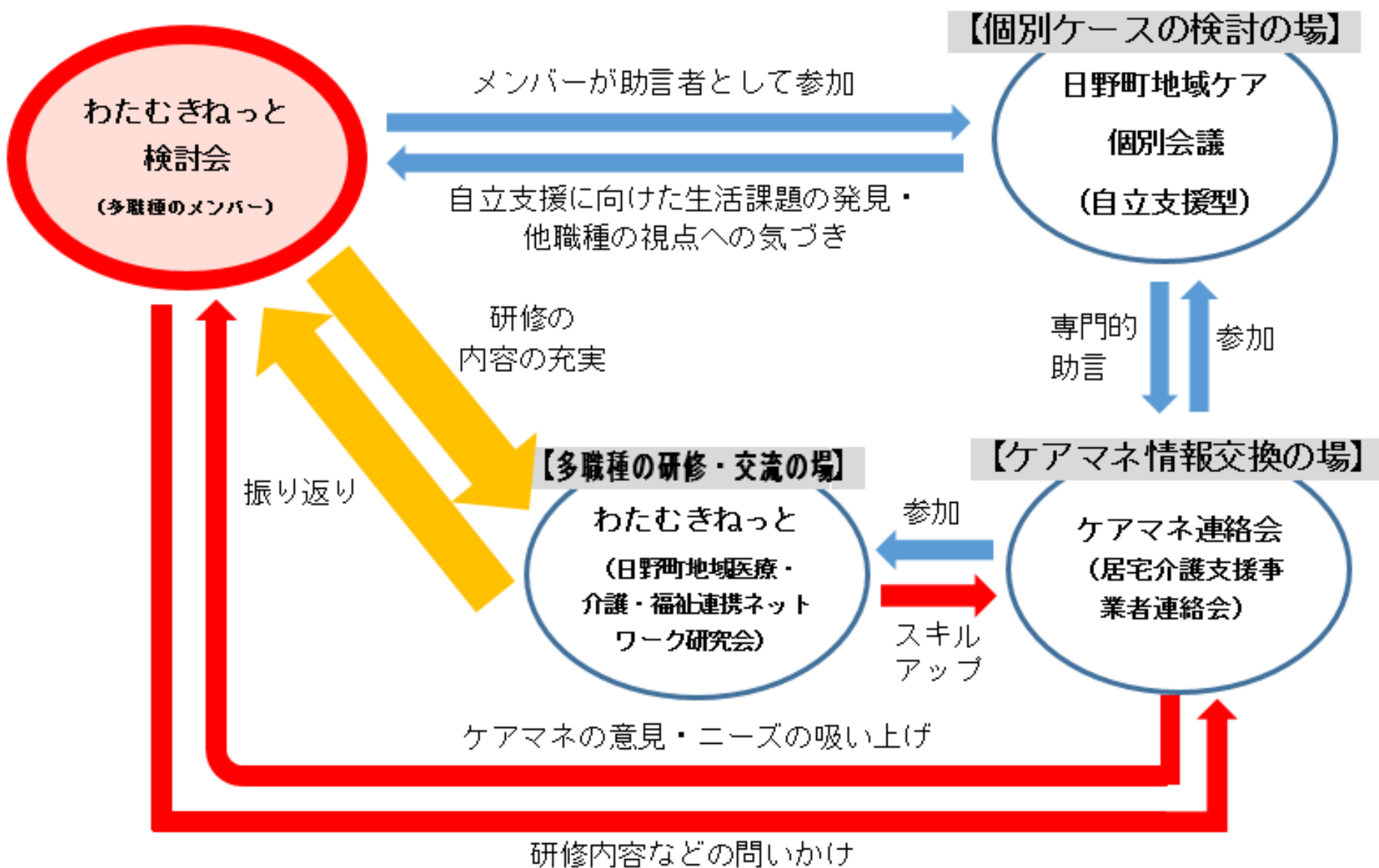
# 7. 事業連動のプロセス②

## ◆「わたむきねっと検討会」「地域ケア個別会議」の連動(平成29年)



# 7. 事業連動のプロセス③

◆「わたむきねっと」「地域ケア会議」「ケアマネ連絡会」の連動（平成30年）

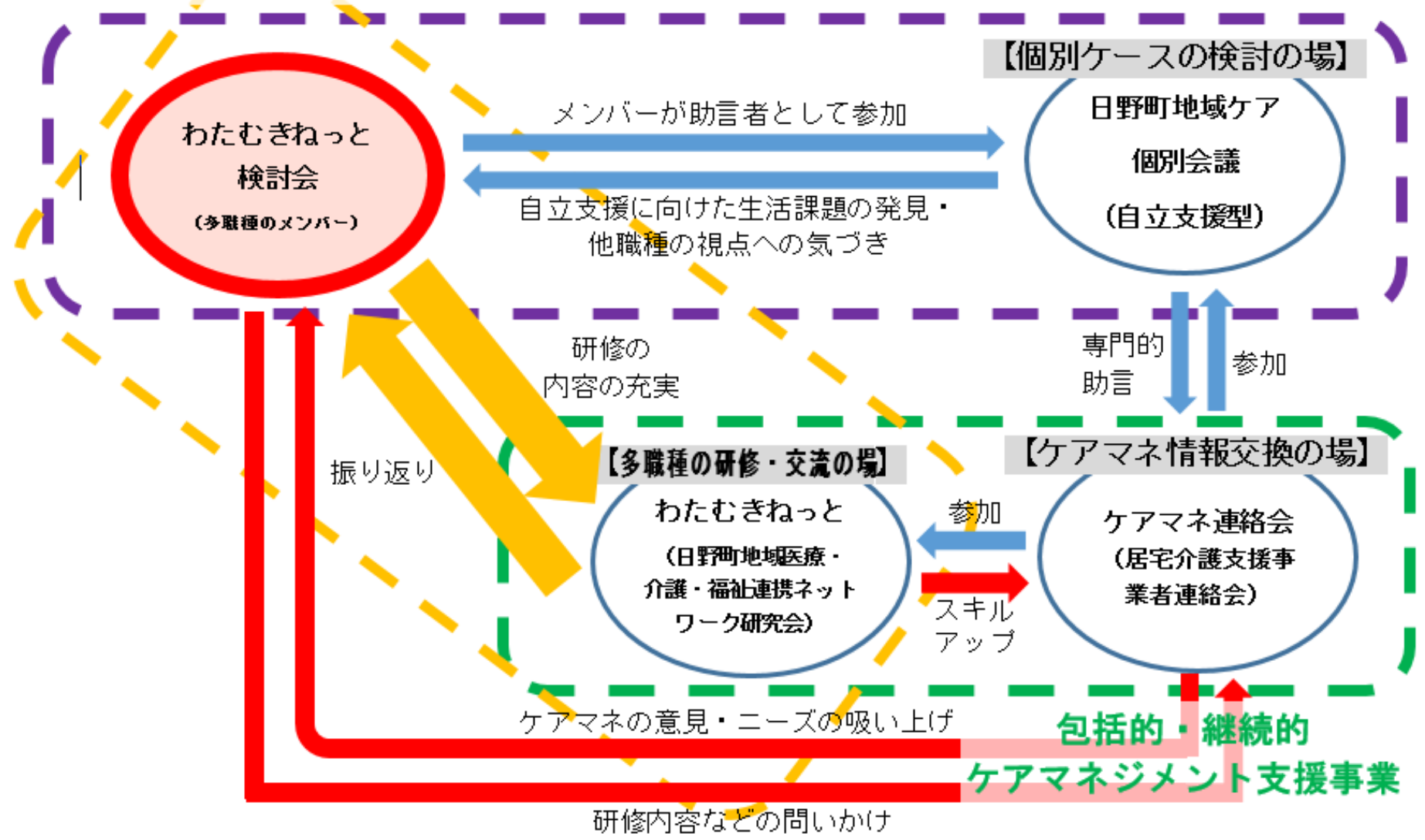


# 8. 事業連動のプロセス(地域支援事業との関係)

## ◆地域支援事業全体の連動の状況

在宅医療・介護連携推進事業

地域ケア会議推進事業





## 9. 事業連動の効果①

### ①わたむきねっと検討委員会が地域ケア推進会議に (地域課題の話し合いが自然にできる)

◆わたむきねっと検討委員会のメンバーが、地域ケア個別会議の助言者を兼ねることで、生活課題の発見や他の職種の見点の気づきが生まれている

◆地域ケア個別会議とわたむきねっと検討委員会を、同日に開催することで、わたむきねっと検討委員会において、地域ケア推進会議としての話し合いもできている

(その日のことを、その日のうちに話し合い。地域として何が足りないのか？という振り返りもできる)

例:リハビリ資源が少ない、口腔機能が重要、栄養管理、地域に通いの場がない、移動手段がない など

### ②わたむきねっとでの研修内容の充実 (生活課題に即した具体的な内容に変化)

- ◆地域ケア個別会議から生活課題が見えてきた(共有できた)ことで、わたむきねっとでの研修内容が具体的なものになってきた

例:

- ・地域ケア個別会議で、義歯の重要性が見えてきた  
⇒単なる「口腔衛生」の研修会ではなく、「義歯」の研修会の開催
- ・地域ケア個別会議で、在宅リハビリの重要性が見えてきた  
⇒リハビリ一般ではなく、「生活リハ」に関する研修会の開催
- ・地域ケア個別会議で、服薬管理の重要性が見えてきた  
⇒薬一般の話ではなく、「服薬管理」の研修会を開催予定

# わたむきねっとの様子



## 9. 事業連動の効果③

### ③ケアマネ連絡会(居宅介護支援事業者連絡会)の充実 (話し合うべき内容が見えてきた)

◆わたむきねっとの研修会と地域ケア個別会議の連動によって、ケアマネ連絡会との連動も意識できるようになってきた

例:わたむきねっとの研修会の内容をケアマネ連絡会でも検討してもらう(具体的にどこが聞きたいかなど)、ケアマネ連絡会が出た意見をわたむきねっとで取り上げ検討するなど(ケアマネさんは、ここが知りたいなど)

### ④個別のケース対応の変化 (日々の中で連携を意識するようになった)

◆日々のケース対応の中でも、連携がみられるようになってきた

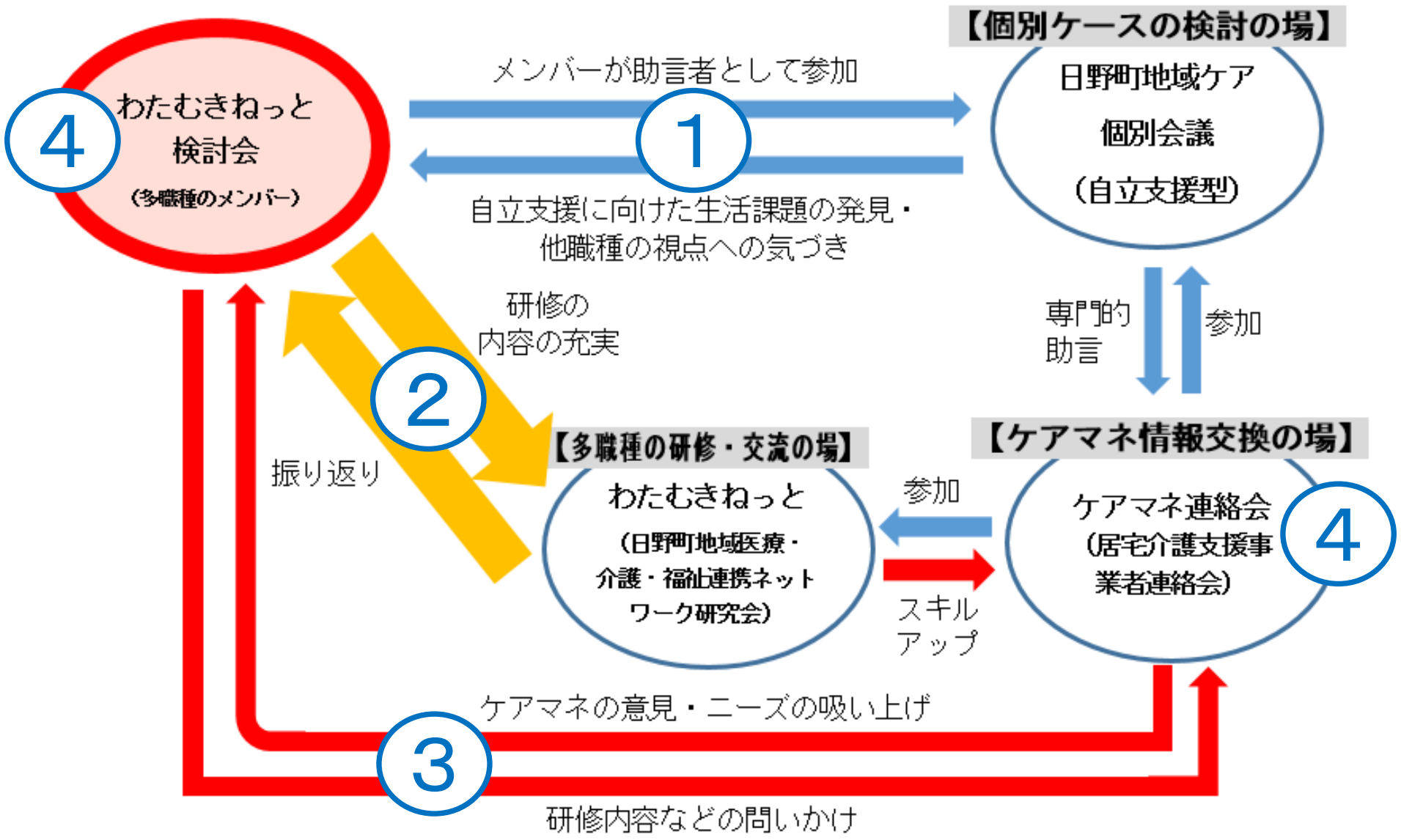
例：服薬管理ができていなかったケースについて、地域ケア個別会議で検討した事例を参考にして、ヘルパーが服薬状況をケアマネに報告

⇒ケアマネが、医師と調整して、処方を変えることで、服薬管理ができるようになった

◎わたむきねっとの効果なのか？地域ケア個別会議の効果なのか？研修の効果なのか？連動の効果なのか？特定はできない(する必要もない?)が、このような連動が生まれることで、「小さな変化」が少しずつ波及していく可能性

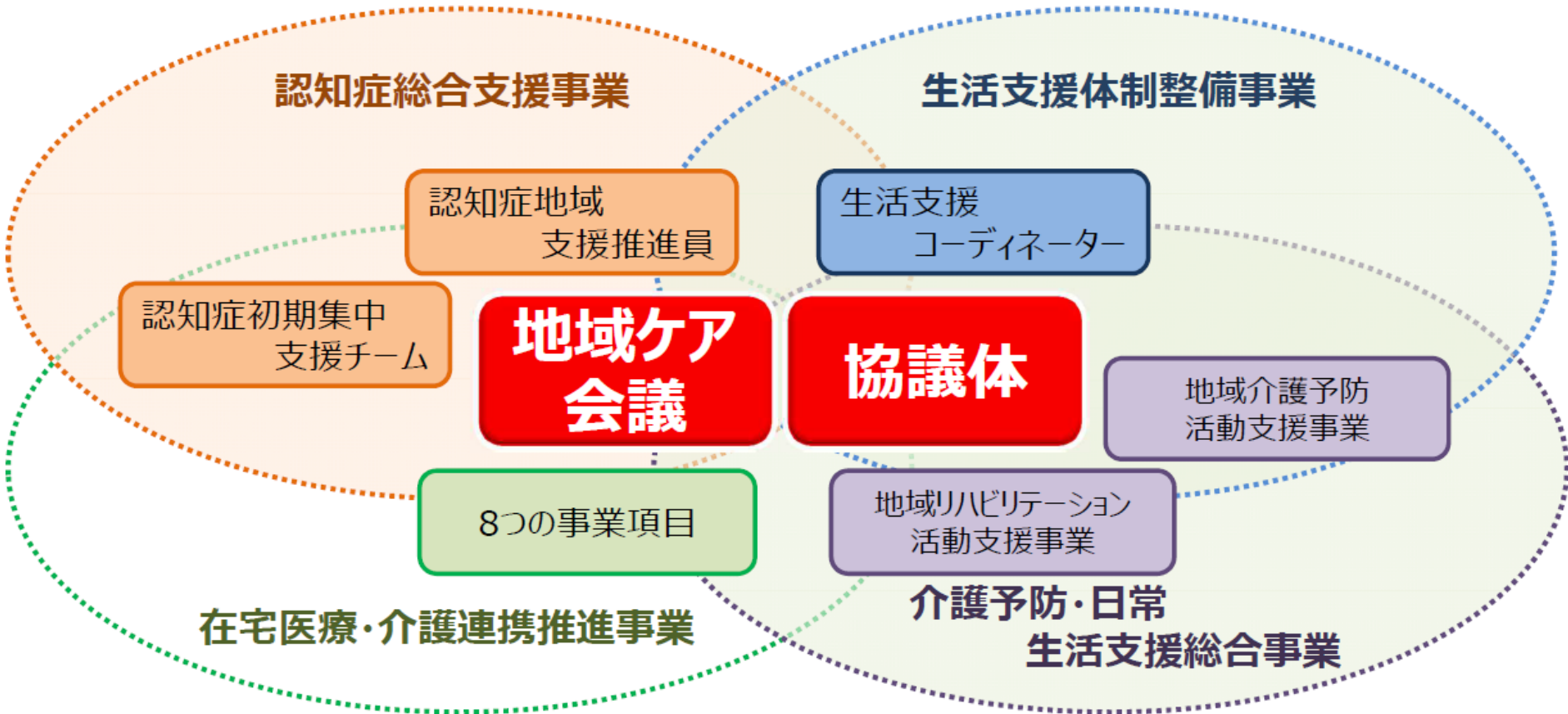
# 9. 事業連動の効果(まとめ)

## ●事業連動の中で、①～④の効果をとらえてみる



# 10. 今後の方向性(野望?)

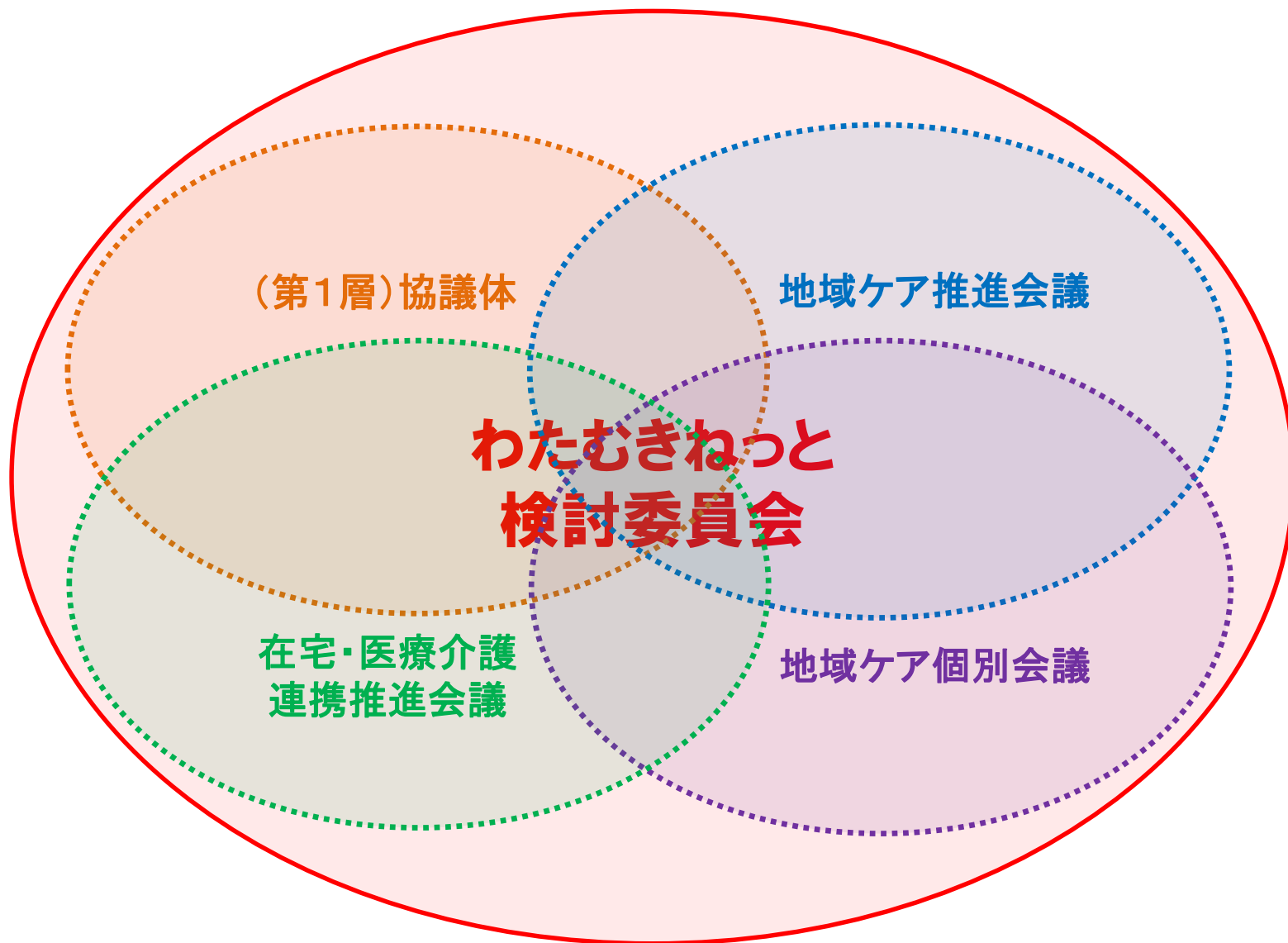
## ● 国の地域支援事業の連動イメージ



## 10. 今後の方向性(野望?)

### ●日野町の地域支援事業の連動イメージ

“わたむきねっと検討委員会の多機能化、重層化”





## 10. 今後の方向性(野望?)

①わたむきねっと検討委員会の多機能化、重層化  
(地域課題への挑戦。より実践的なアプローチへ)



②職能団体の変化(専門職団体の変化への期待?  
より多くの専門職の変化?)

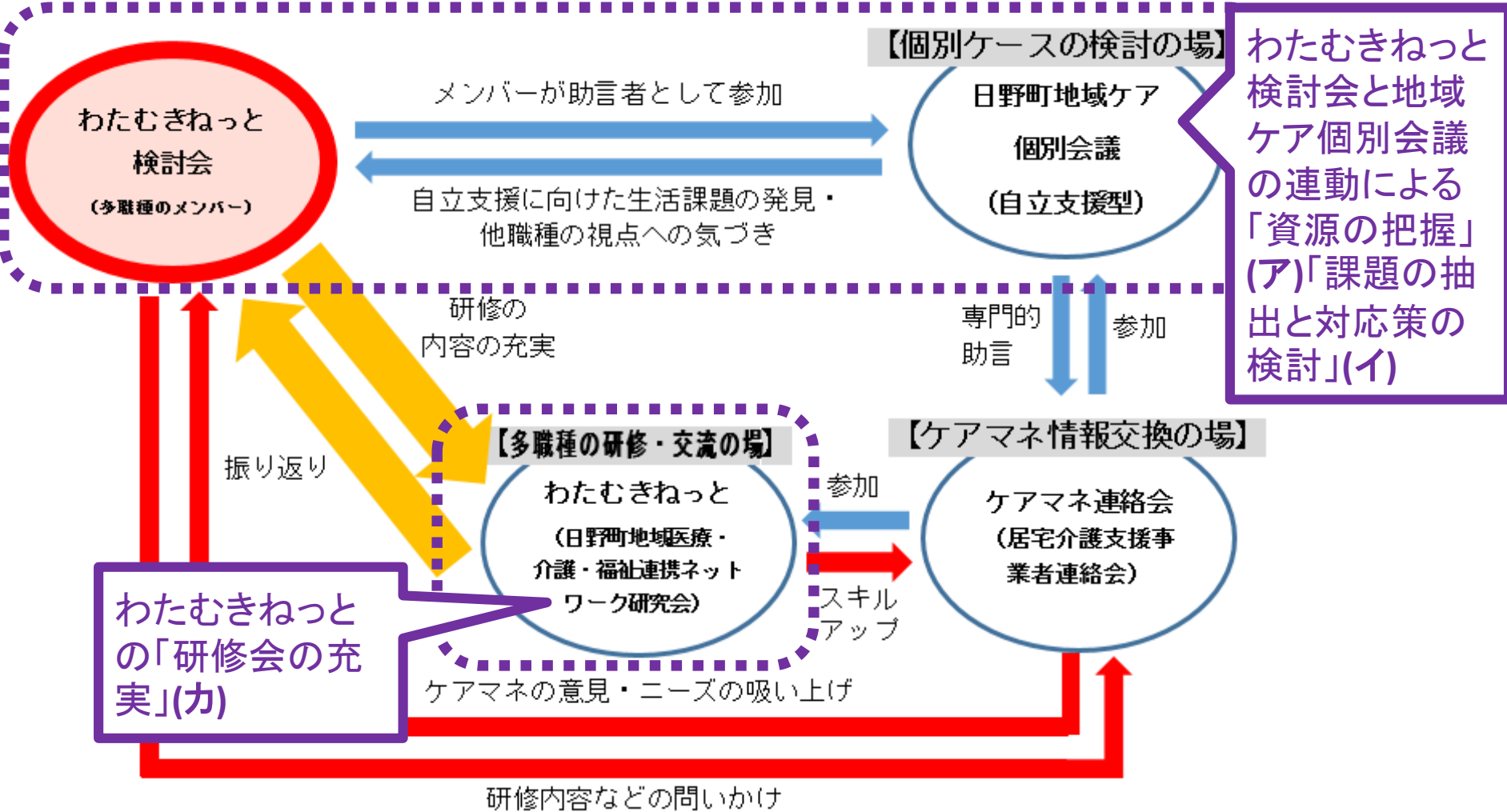


③町・地域としての変化へ(さまざまな機関との連動、  
民間サービスとの連動、地域の支え合いとの連動)

**※「小さな変化」を大切にし、積み重ねていきたい**

# 【参考】日野町で取り組んだ内容を(ア)~(ク)で整理してみると...

◆当初(ア)~(ク)のイメージがつかなかった。振り返ってみると、連動の成果として(連動の輪が広がることで)、少しずつできてきているようにも思われる



※一気に全体がバランス良く進むものではない?できるところから、一つずつ進めていくこと、また、出てきた変化を大切にしていけることが大切



ご清聴いただき、ありがとうございました。